

4-5 みかげ通り

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・ 昼と同じように夜もにぎわいを感じる通り
- ・ 歩きたくなるような回遊しやすい雰囲気づくり
- ・ 足元の明るさを確保できる光源の設定
- ・ 建物低層部と歩行空間の一体的な夜間景観

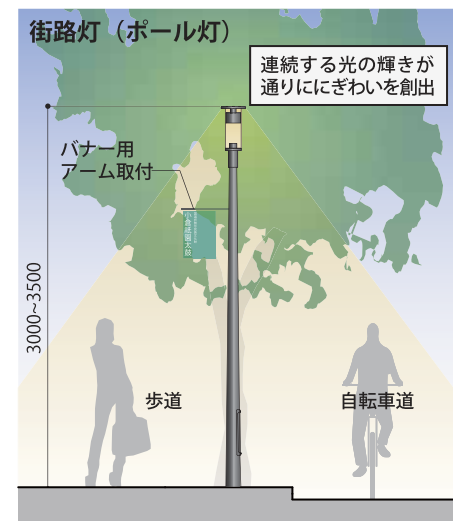
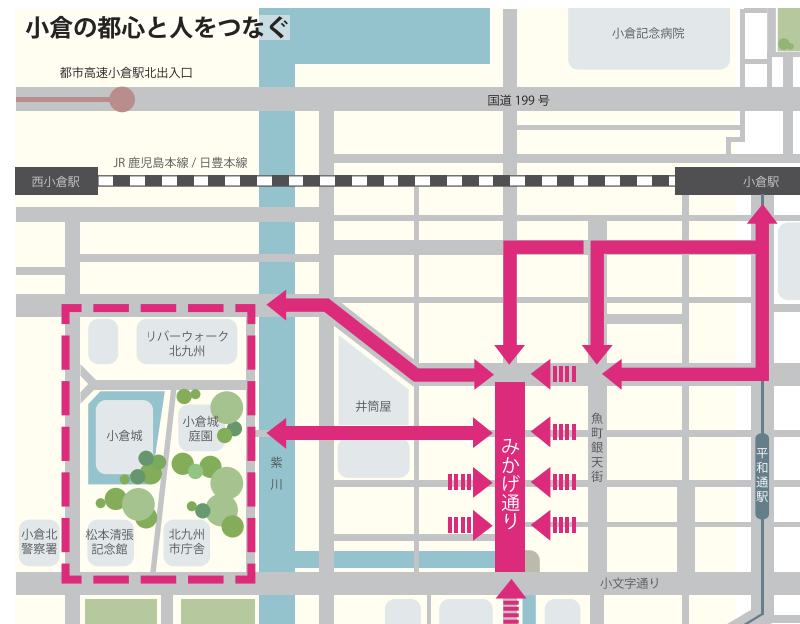


都心と人をつなぐ洗練されたストリート “KOKURA Lively Street”

個性的な店舗や大小の建物に囲まれた“みかげ通り”。アーケードや商店、紫川、小倉城など、様々な方面をつなぐ昼夜人通りの多い場所という特徴から、行き交う人の流れや表情を取り込みヒューマンスケールの夜間景観を描きました。全体を均一の明るく照らす従来の照明手法ではなく、光の重心を低く抑え、通り全体に光の陰影を与えることで市民や来訪者が歩きたくなる洗練された光環境を表現しています。

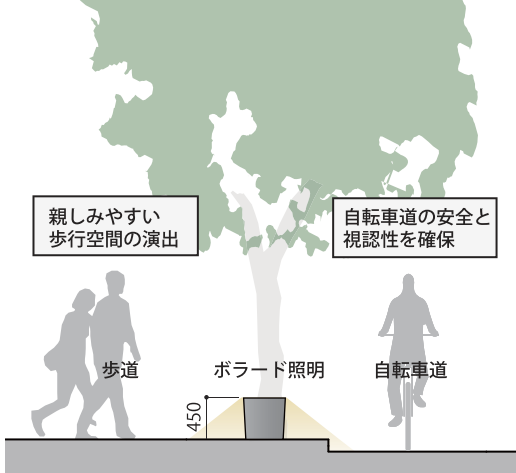
<照明デザインポイント>

- ・ 適度な輝度感のある街路灯を連続させて通りにつながりとにぎわいを演出
- ・ 歩道は低位置の光で足元を照らし、通りに光の陰影と回遊性を創出
- ・ 街路灯は樹木に遮光されず歩道幅員に対して適切な高さを設定
- ・ 歩道と車道の境界を光で示して自転車道の安全と視認性を確保
- ・ 沿道の建物や広告物もライトアップし、通りのイメージアップを図る



街路灯は樹木で遮光されず通行者の目線で光がつながるように3~3.5mの高さに抑え、適度な輝度感を与えることで通りのにぎわいを創出できます。

ボード照明(車止め・ベンチ・足元照明)



車止めとベンチを複合したボード照明は車道と歩道の境界をわかりやすくします。重心の低い足元を照らす光は歩行空間を演出して自転車道の安全と視認性を高めます。



サインや広告物は色温度や点滅・グレアに一定のルールを設け美観に配慮します。

無線調光LED照明ネットワーク

| | | | | | | |
|---------|----|---------|----|---------|----|---------|
| PM 6:00 | >> | PM 9:00 | >> | AM 2:00 | >> | AM 6:00 |
| 60% 点灯 | | 100% 点灯 | | 80% 点灯 | | 60% 点灯 |

街路照明は時間帯によって求められる明るさが異なります。人通りが絶える時間にもにぎわう時間帯と同じ明るさにする必要はありません。夕暮れ後の人通りの多い時間は通りを明るくし、深夜にかけては明るさが徐々に弱まり落ち着いた光へ変化させます。時間や周囲の明るさに応じて点灯時間や明るさを制御することができる無線調光LED照明ネットワーク技術により、みかげ通りに多様な表情や魅力的な光環境を創出することができます。

4-6 室町

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・通りの幅員とバランスの取れた街路灯の高さ設定
- ・人が安心できる明るさの確保
- ・歴史情緒を感じさせる、陰影のある落ち着いた雰囲気
- ・旧長崎街道を軸とした、室町エリア内の魅力的な回遊ルート
- ・エリアをつなぐ常盤橋の動線を明確に



旧長崎街道をあかりで彩る 歴史を感じさせる趣きのあかり

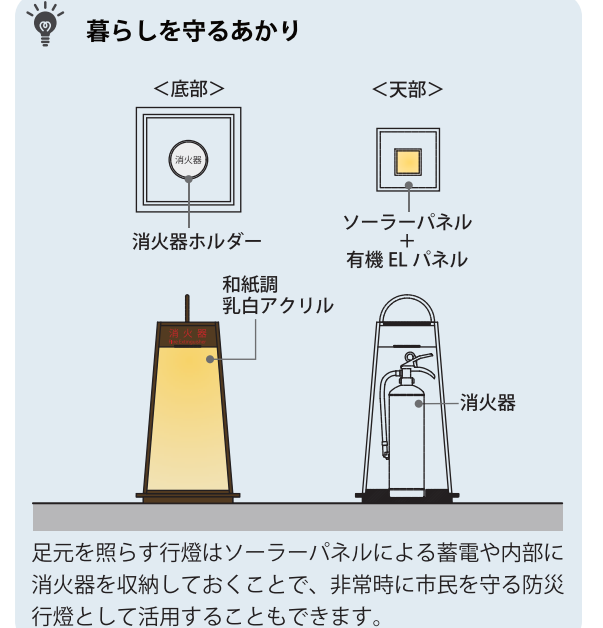
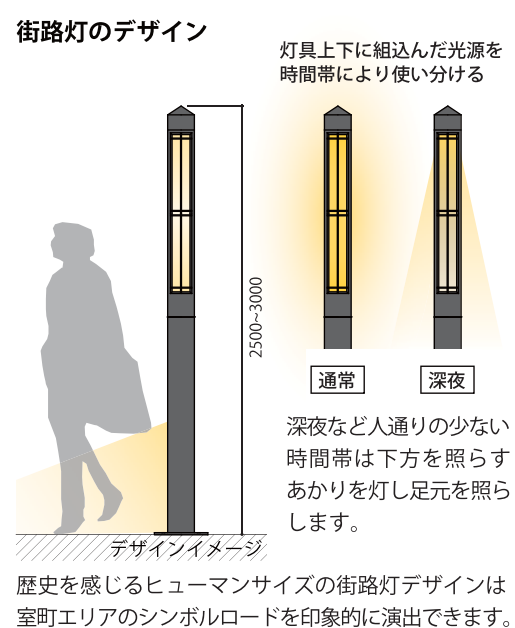
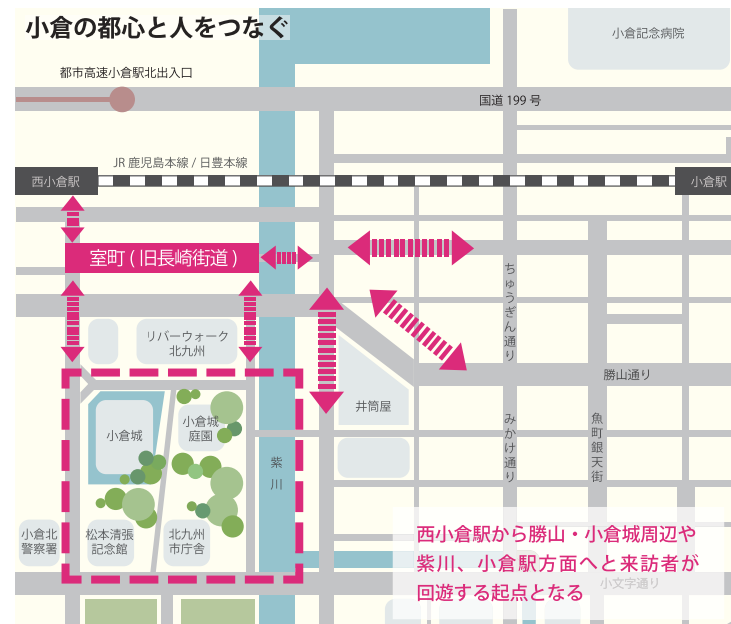
常盤橋から西小倉駅にかけての旧長崎街道。道路照明は落ち着いた低い色温度と陰影を残した趣のあるあかりを適所に配置することで、歴史を感じる街並みを描きました。歩行者の視線や歩車道の幅員に合わせた高さの道路照明を配置し、市民や訪れる人が親しみを感じる雰囲気を演出しています。

<照明デザインポイント>

- ・街並みにあわせたヒューマンスケールの街路灯デザイン
- ・路地は足元を照らすあかりを配置し親しみを感じられる散策ルートを創出
- ・低い色温度と陰影のある照明により歴史的な風情を感じさせる光環境を演出
- ・常盤橋は橋の欄干を活かした足元を照らす光により木の温かな表情を演出



夜間景観イメージ



足元を照らす行燈はソーラーパネルによる蓄電や内部に消火器を収納しておくことで、非常時に市民を守る防災行燈として活用することもできます。

4-7 鷗外橋

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・橋で佇むことができる空間創出
- ・橋の特徴を際立たせる照明デザイン
- ・対岸からの見え方への配慮
- ・夜間景観のビューポイントの設定
- ・水辺の潤いを感じさせるライトアップ効果の創出



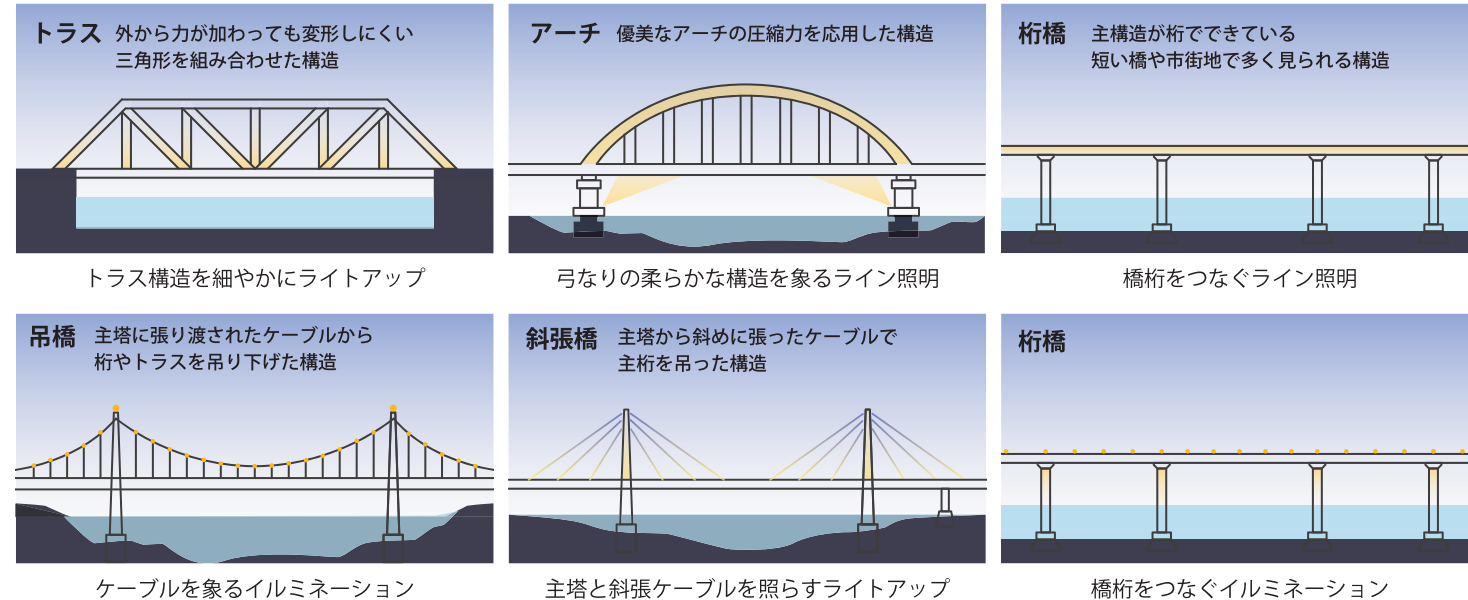
水面への憧れ 紫川の光の架け橋

紫川には自然をテーマにした 10 本の橋が架かっています。それぞれの特徴やそこから見える水景を活かした夜間景観を描きました。水辺と橋梁の光環境を整備することでまちの骨格を明確にでき、夜間の人々の回遊を促進します。都心を流れる紫川の豊かな流れを楽しみながら、人々が安心して散歩できる夜間景観を表現しています。

<照明デザインポイント>

- ・対岸をつなぎ、まちの回遊を高める歩道照明
- ・水面の表情を活かした、水の潤いを感じさせるライトアップ
- ・橋の形状や素材を活かした個性ある照明デザイン
- ・紫川と周辺の魅力ある夜間景観を望むビューポイントづくり
- ・橋上の夜の佇みのスポットづくり

橋の種類による照らし方の例



豊後橋（音の橋）は主塔とハーブの弦を連想させるケーブルを象徴的に照らすことで川面に映り込む美しいライトアップを創出できます。



紫川橋（鉄の橋）は柱を照らし上げることでアーチ橋の繊細な表情をライトアップしています。

4-8 紫川

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・対岸から見る光景を意識した水辺周辺の照明計画
- ・水際を照らす光
- ・連続した光による水辺のつながり
- ・紫川をつなぐ橋梁歩行面の明るさ確保
- ・ベンチや階段、広場など、佇みのための空間演出

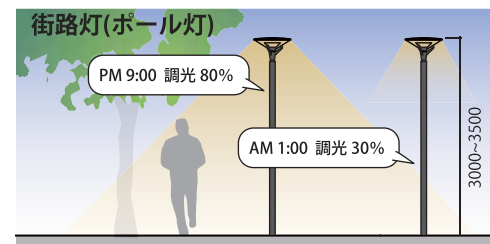
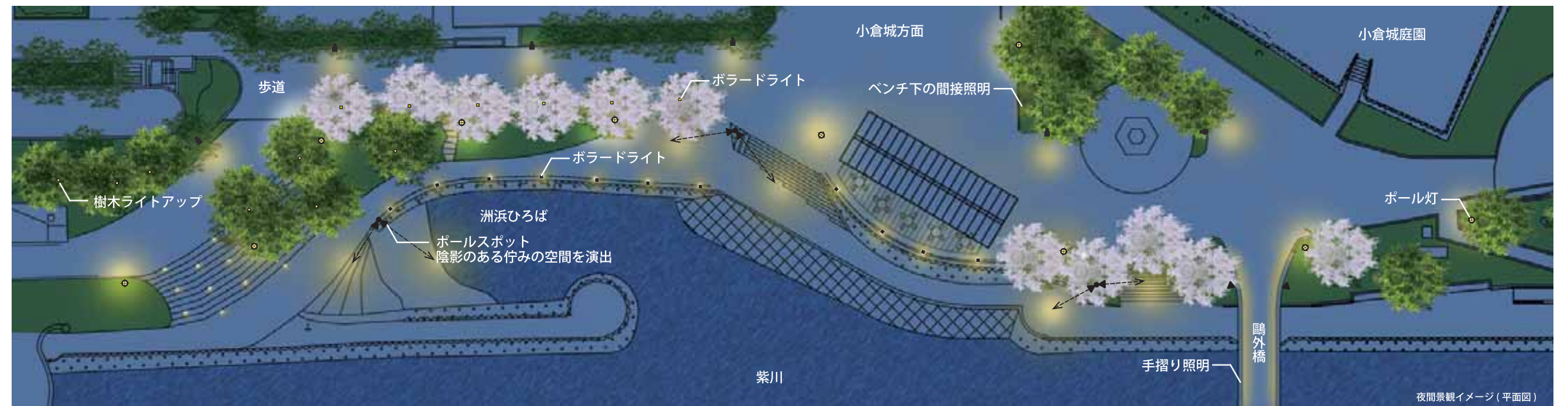


水と光の競演 水上のワイドステージ

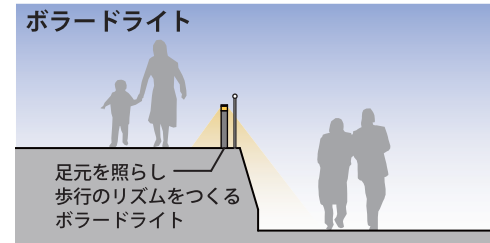
都市と自然が調和する市民の憩いの場所、紫川。夜間は水面に映り込む光景が昼間とは違う魅力をつくり出します。その魅力を楽しむために水辺の空間全体を明るくするのではなく、細やかなあかりを適所に配置することで、誰もが安心して佇める心地よい環境を描きました。紫川に架かる個性豊かな橋をライトアップすることでエリアとエリアがつながり、回遊性を高めることができます。

<照明デザインポイント>

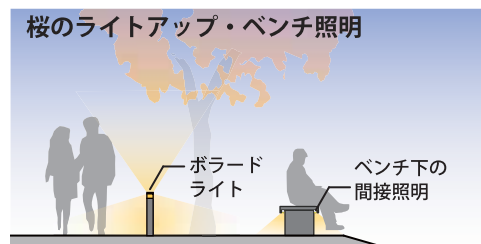
- ・紫川の水面への映り込みを意識した照明計画
- ・足元を照らす光を連続させ、紫川を中心とした軸線を強調
- ・樹木や護岸の表情を取り込み、水辺の視覚的な明るさ感を創出
- ・親水広場や階段ベンチに光溜まりをつくり佇みの空間を演出
- ・桜のライトアップなど催事に合わせたライトアッププログラム



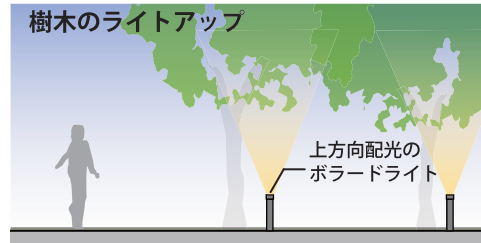
無線調光技術を取り入れた街路灯は時間帯に合わせて水辺の表情に変化をつくり出します。



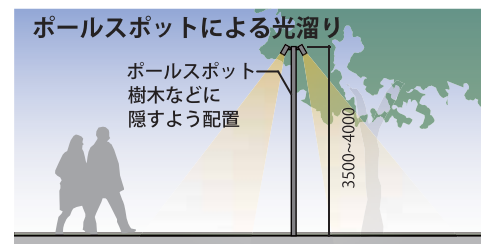
連続する足元のあかりでリズム感をつくと散策の楽しさを演出できます。



視線より低い位置のあかりは憩いの空間を演出できます。



植栽を照らす光で水辺空間に明るさをだすと親しみやすい水辺空間が演出できます。



高い位置から照らすスポットライトのあかりは佇みの空間を創出します。



モニュメントを照らし視覚的な明るさをつくることで広場や通りにアクセントとなる表情を創出できます。



鷗外橋はライトアップされた小倉城天守閣を見ることがのできる絶好のビューポイントです。照明計画を行う上では、視界に照明器具のまぶしさを感じないように配慮することが大切です。



散策の合間み見る特別な光景に人々は驚きや感動を覚えます。噴水のライトアップにより、親水空間の魅力を高め、季節やイベントに合わせた新たな演出を行うことができます。

4-9 小倉城 [夜間景観魅力アップ事例]

小倉都心地区で実際に夜間景観の魅力アップを図った事例です。周辺の散策路の魅力アップイメージ(例)も紹介します。

魅力ある夜間景観形成の視点

- ・ビューポイントの増設
- ・メリハリのある天守閣のライトアップ
- ・石垣の表情を美しく演出
- ・唐造りの天守や野面積みの石垣など小倉城の特徴を活かす
- ・安心して歩ける空間づくり

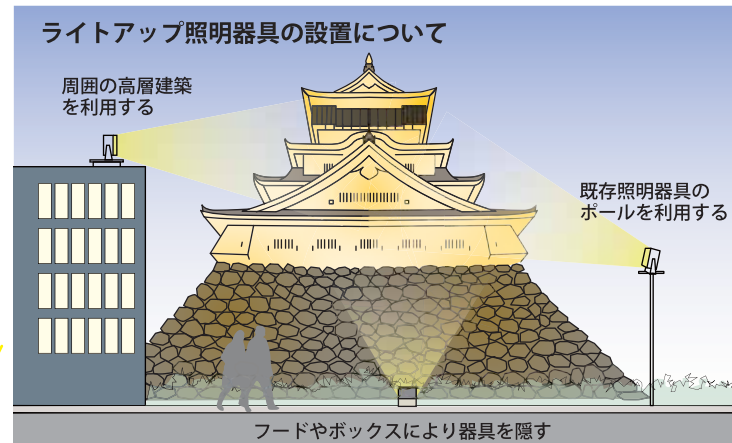
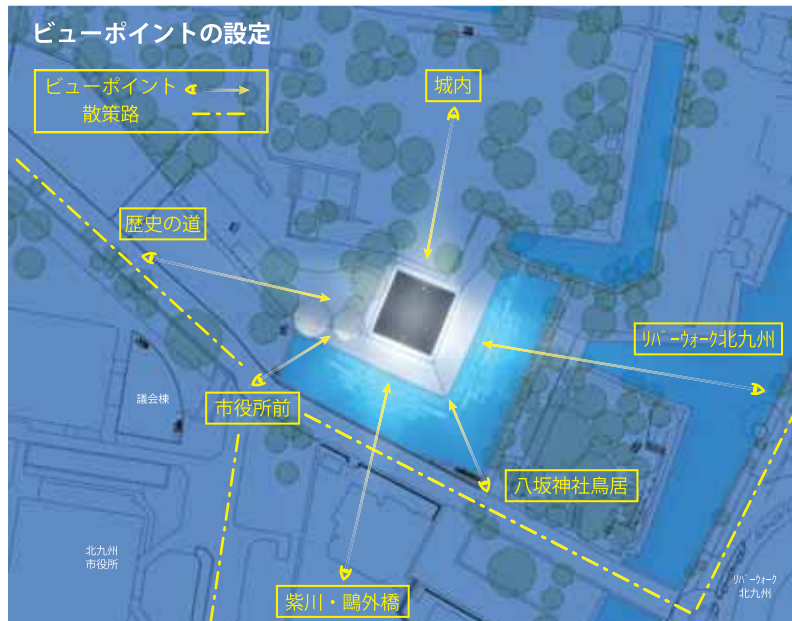


この光は目を閉じて消えない 水鏡の城

歴史情緒と新しい文化が混在する小倉都心地区のシンボルである小倉城。LED光源を使用した照明器具により省エネに配慮しながら、品格のある佇まいを感じさせる演出をしました。白壁の美しさを引き立て、細部の構造美を見せるライトアップにより、お堀の水面に映し出される姿が幻想的な世界観を創出しています。

<照明デザインポイント>

- ・屋根と白壁のコントラストを際立て遠景からの視認性を高める
- ・野面積みの石垣の素朴ながら豪快な表情を繊細にライトアップ
- ・鯨や垂木、破風などを細やかに照らして城の構造美を魅せる
- ・水面に映り込む幻想的な小倉城の姿を創出
- ・ライトアップされた城を見るためのビューポイントの設定
- ・白壁や手摺りのあかりにより動線を明確にし回遊性を高める



- ・周囲への光漏れやまぶしさの影響がないかを確認して設置場所を検討
- ・取付場所に応じて器具の色・基礎の素材を検討
- ・人の手が届く場所はボックス等を用いて器具をカバー
- ・長寿命な光源、耐久性の高い素材を選定
- ・光源がビューポイントからの視界に入らないよう検討



小倉城天守閣を間近に見ることができる「歴史の道」のライトアップを行うことで、歩行者の安全性の確保と昼間とは異なる表情を演出し小倉城のブランド価値を高めることができます。白壁をライトアップすることで通りの明るさを確保し城下の風情を創出できます。またお堀の手摺りに足元を照らす照明を設置することで、来訪者に城内への回遊を促すことができます。